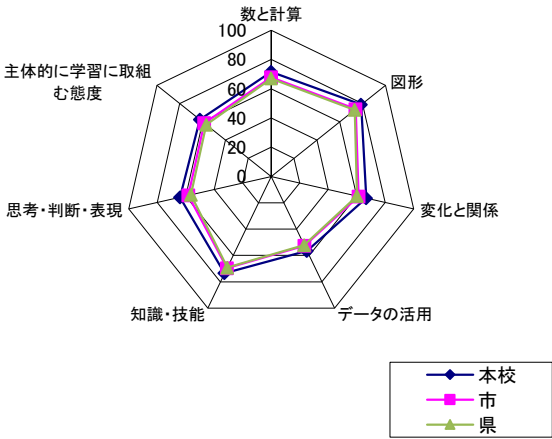


宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.6	67.8	67.0
	図形	78.8	73.9	73.1
	変化と関係	66.7	61.4	60.2
	データの活用	56.5	52.7	52.1
観点	知識・技能	73.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	64.0	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	62.3	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の平均正答率は、71.6%で、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ○分数では、大小比較の問題の正答率が、86.4%、帯分数＋帯分数の問題の平均正答率が75.0%で、それぞれ、県の平均を12.2ポイント、11.9ポイント上回っている。 ●四則計算の混ざった計算のきまりの正答率は、60.2%で、県の平均を2ポイント下回っている。	・「四捨五入」や「以上」、「以下」、「未満」などの言語の意味を正しく理解させるために、生活の中で折に触れて活用し、言語理解に努める。基礎的・基本的な計算の定着を図るために、授業や朝の学習、家庭学習などで、継続的に四則計算の問題に取り組ませていく。
図形	○図形の平均正答率は、78.8%で、県の平均を5.7ポイント上回っている。 ○直方体の辺に関する問題では、正答率が92.0%と、県の平均を22.3ポイント上回っている。 ●およその面積を求める問題では、44.3%と、県の平均を3.5ポイント上回っているものの、誤答が目立つ。	・身の回りにある正方形や長方形の面積を実際に調べる活動を通して、日常生活と関連させ、面積の意味を理解し、面積の大きさについての感覚を身に付けられるようにする。同時に、それらの大きさを表すための単位についても推測させるようにする。
変化と関係	○変化と関係の平均正答率は、66.7%で、県の平均を6.5ポイント上回っている。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」問題の正答率は、47.7%で、県の平均を10.8ポイント上回っている。 ●割合を求めて比較する問題の正答率は、48.9%であり、県の平均を9.4ポイント上回っているが、正答率が半数を越えず、無解答が25%を越えた。	・フォローアップシートでの復習をし、定着を図る。また、授業の中で式や図・言葉など多様な方法で表現したり、根拠を明らかにして説明したりする活動を取り入れていくことで、理解がさらに深まるようにする。 ・図や言葉などを使って、自分の考えを表現したり、友達の意見を取り入れて考えたりする活動を取り入れることで、根拠を明らかにして説明することができるようにする。
データの活用	○データの活用の平均正答率は、56.5%で、県の平均を4.4ポイント上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフの読み取る問題の正答率は、62.5%と、県の平均を7.3ポイント上回っている。 ●「折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する」問題では、県の平均を2.8ポイント上回っているものの、正答率は34.1%と低く、無解答は26%を占めた。	・多くの情報の中から、必要な情報だけを取捨選択したり、資料を読み取る力を身に付けるために、根拠を明らかにして説明したりする活動を取り入れていく。